

令和6年3月8日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立駒場小学校
学校長 北島 陽彦

令和6年度 目黒区立駒場小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和5年6月17日(土) 11時00分～12時30分

- ・学校公開参観
- ・令和5年度学校経営方針等説明
- ・学校の様子について
- ・学校評議員の皆様からご意見等について

第2回実施日時 令和5年12月2日(土) 9時00分～13時00分

- ・学校(ミュージックフェスタ)鑑賞
- ・令和5年度・教育活動近況報告
- ・学校評議員の皆様からのご意見等について

第3回実施日時 令和6年2月16日(金) 17時15分～18時30分

- ・令和5年度教育活動報告および学校評価結果から(四者評価を含む)
- ・学校評議員の皆様からのご意見等について

2 参加者 校長、副校長、PTA会長 学校評議員(5名)

3 評価の結果等 ※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎（成果）、●（課題）、 ⦿（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見																		
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて <table border="1"><thead><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr></thead><tbody><tr><td>保護者</td><td>87.7</td><td>-4.5</td></tr><tr><td>児童（低）</td><td>83.2</td><td>-5.4</td></tr><tr><td>児童（高）</td><td>83.8</td><td>-1.8</td></tr><tr><td>地 域</td><td>100</td><td>±0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.5</td><td>-9.5</td></tr></tbody></table>	対象	結果	差	保護者	87.7	-4.5	児童（低）	83.2	-5.4	児童（高）	83.8	-1.8	地 域	100	±0	教職員	90.5	-9.5	◎地域からの肯定的評価は 100%で、大変好評価である。学校評議員会での報告や学校だより等で発信している成果であると考え。 ●児童の学校に対する肯定的な回答評価が下がり、全校共 90%	・児童の思いをしっかりと聞きながら、達成感ある活動につなげるようにしていく。	・数字に振り回される必要はなく、回答率が少ない中、結果としてはよく出ている。経年比較を取っているが、一概に良くない結果とは捉えていない。
対象	結果	差																			
保護者	87.7	-4.5																			
児童（低）	83.2	-5.4																			
児童（高）	83.8	-1.8																			
地 域	100	±0																			
教職員	90.5	-9.5																			

	をかなり下回った。 学年によって満足度 が違っている。																	
I 教育目標について ・教育目標、時程、教育内 容全体について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>保護者</td><td>74.9</td><td>-15.8</td></tr><tr><td>地 域</td><td>100</td><td>±0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>±0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	74.9	-15.8	地 域	100	±0	教職員	100	±0	◎地域の評価は高く、 また教職員の達成 感もある。 ●保護者の肯定的評価 が－15.8 ポイント になった。アンケー トの方法が昨年と 違い、一概に比較が できないが、学校に 対して否定的な意 見が一部あるので はないかと考える。	・「駒場の地に根ざす学 校づくり」が着実に定 着してきていると考 え、引き続き地域交流 の方法等も工夫して、 駒場の児童として誇 りをもたせていく。	・保護者の結果につい ては、学校を良くして ほしいという思いの 表れである。 ・駒場愛を盛り込んだ 広報が必要だと感じ る。行事や活動がど のようなものかがわか れば、おのずと理解さ れ評価は上がってい く。			
対象	結果	差																
保護者	74.9	-15.8																
地 域	100	±0																
教職員	100	±0																
II 心の教育について ・道徳科(道徳)の授業の 充実や児童・生徒の道 徳的実践力の向上に向 けた取組について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>保護者</td><td>71.9</td><td>-14.3</td></tr><tr><td>児童(低)</td><td>95</td><td>+0.7</td></tr><tr><td>児童(高)</td><td>96.6</td><td>-2.4</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>±0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	71.9	-14.3	児童(低)	95	+0.7	児童(高)	96.6	-2.4	教職員	100	±0	◎道徳授業地区公開講 座実施直後の保護者 アンケートは概ね好 評だった。児童は一 定に学びを感じてい る。 ●教職員の結果は概ね 良いので、どのよう に工夫改善している かを広報していく必 要がある。	・道徳授業地区公開講 座の実施の仕方をは じめとして、心の教育 への指導、また、保護 者や地域との共有も 含めて検討し、しっか り連携して子どもた ちの心の成長につな げていく。	・学校行事に参加した 方の意見と、参加しな かった方の意見を分 けて考える必要があ る。実施直後の保護者 アンケートの取り方 を工夫したらよい。
対象	結果	差																
保護者	71.9	-14.3																
児童(低)	95	+0.7																
児童(高)	96.6	-2.4																
教職員	100	±0																
III 学習指導等について ・学力の定着・向上に向 けた授業の改善・充実、 少人数指導、駒場ベー シックタイム、主体的 に学習に取り組む態度 等の取組について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>保護者</td><td>68.4</td><td>-17.4</td></tr><tr><td>児童(低)</td><td>87.7</td><td>-7.1</td></tr><tr><td>児童(高)</td><td>91.6</td><td>-3.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2</td><td>-4.8</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	68.4	-17.4	児童(低)	87.7	-7.1	児童(高)	91.6	-3.8	教職員	95.2	-4.8	◎児童の評価は、昨年 度より低くなってし まったが、高学年を 中心に 90%は超える 肯定的な評価を得て いる。 ●学力調査の結果は悪 くない。児童にでき たという思いがもて るような授業を展開 していく。	・デジタル教科書や I C T 機器を有効活用 した授業を積極的に 行うとともに、公開授 業でも全クラスで児 童が活用する様子を 参観していただき、保 護者の理解につなげ ていく。 ・学校広報が重要であ る。今年度以上に HP 等で公開していく。	・研究開発学校研究発 表会に向けて、教職員 がみな同じ方向に向 けて努力をしていた。 児童の様子も雰囲気 は良かった。このこと を詳しく具体的に知 らせるようにしたら よかった。
対象	結果	差																
保護者	68.4	-17.4																
児童(低)	87.7	-7.1																
児童(高)	91.6	-3.8																
教職員	95.2	-4.8																
IV 体育・健康教育につ いて	◎高学年児童の評価 は、高くなっている。	・開かれた教育活動を 意識しつつ、新たな公	・見直された運動会や ペースランニング大															

・体力向上、健康の促進に向けた取組について <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>70.8</td><td>-13.9</td></tr><tr><td>児童（低）</td><td>88.3</td><td>- 5.5</td></tr><tr><td>児童（高）</td><td>86.0</td><td>+2.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>81.0</td><td>-11.3</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	70.8	-13.9	児童（低）	88.3	- 5.5	児童（高）	86.0	+2.9	教職員	81.0	-11.3	●教職員からは昨年度よりも否定的意見が増え、コロナ禍以前の活動に戻すのか変更を維持していくのか、意見が分かれ数字に表れる結果となった。	開スタイルでの運動会やペースランニング大会等の取組を工夫し、実施していく。 ・食育指導については、給食内容についての説明をクラスにて画像提示し、給食に対する関心を高めるとともに、世界の料理や地産地消等の取組を通じて、さらにその充実を図る。	会の継続をお願いしたい。 ・給食は、国や日本の地域ごとのメニューなどとても豊富であるので、食育を含めもっとアピールをした良い。			
対象	結果	差																			
保護者	70.8	-13.9																			
児童（低）	88.3	- 5.5																			
児童（高）	86.0	+2.9																			
教職員	81.0	-11.3																			
V 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の活性化などについて <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>77.2</td><td>-5.9</td></tr><tr><td>児童（低）</td><td>89.9</td><td>-1.7</td></tr><tr><td>児童（高）</td><td>91.6</td><td>+2.5</td></tr><tr><td>地 域</td><td>90</td><td>+18.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.5</td><td>-5.8</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	77.2	-5.9	児童（低）	89.9	-1.7	児童（高）	91.6	+2.5	地 域	90	+18.6	教職員	90.5	-5.8	◎昨年度まではコロナ感染症に対する制限が多かった地域と連携した活動が復活することによって、評価（昨年度より 18.6 ポイント増加）も高くなった。 ●保護者や教職員も、肯定的評価が下がっている。コロナ禍前後で行う行事について精選が必要である。	・運動会やミュージックフェスタの実施等来賓を呼ぶことができたことが大きく影響したものとする。 引き続き地域に開かれた活動方法を検討していく。	・ミュージックフェスタは素晴らしかった。来年度は、開校 90 周年の行事も行われるので、一層行事の広報をお願いする。
対象	結果	差																			
保護者	77.2	-5.9																			
児童（低）	89.9	-1.7																			
児童（高）	91.6	+2.5																			
地 域	90	+18.6																			
教職員	90.5	-5.8																			
VI 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>58.5</td><td>-26.1</td></tr><tr><td>児童（低）</td><td>89.4</td><td>-4.9</td></tr><tr><td>児童（高）</td><td>93.3</td><td>-1.0</td></tr><tr><td>地 域</td><td>100</td><td>+42.9</td></tr><tr><td>教職員</td><td>66.7</td><td>-14.8</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	58.5	-26.1	児童（低）	89.4	-4.9	児童（高）	93.3	-1.0	地 域	100	+42.9	教職員	66.7	-14.8	◎全体的に肯定評価が下がっている中、児童は低学年も高学年も生活規律など継続して取り組んでいる。 ・地域は 100%と高評価で、学校の応援団として協力している。 ●児童や保護者の対応が、教職員や保護者の否定的評価につな	・生活指導基準を細かく見直し、教職員の共通理解のもと、組織として指導強化につなげていく。 ・特別な支援を要する児童への対応を組織的に行い、関係機関との連携も含め、適切な指導を行っていく。 ・学校公開の場を増やし、保護者が学校の状況を知る機会を得ら	・以前に比べ事案が多様化する中、学校を上げて細かく取り組んでいるが、どのように保護者に理解を求めていくかが課題である。
対象	結果	差																			
保護者	58.5	-26.1																			
児童（低）	89.4	-4.9																			
児童（高）	93.3	-1.0																			
地 域	100	+42.9																			
教職員	66.7	-14.8																			

	がった。	れるよう、努めていく。																
<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>79.5</td><td>-10.4</td></tr><tr><td>児童(低)</td><td>95.5</td><td>-2.4</td></tr><tr><td>児童(高)</td><td>94.4</td><td>-4.1</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2</td><td>+10.0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	79.5	-10.4	児童(低)	95.5	-2.4	児童(高)	94.4	-4.1	教職員	95.2	+10.0	◎児童の肯定的評価は90%を維持できた。教職員では、避難訓練の実施方法の改善に取り組み、一定数の評価を得た。 ●避難訓練を見直しししっかり取り組めている様子や情報モラルについて HP などを通し広報していく。	・今年度は避難訓練の実施について大幅に計画を練り方法を見直した。この見直しを生かして、来年度の実施から意識向上につなげていく。 ・情報モラル教育の重要性を示し、決まりの見直し、指導の徹底を図っていく。	・情報教育として、学習用情報端末を使わないわけにはいかないので、具体的にし、保護者への理解も得られるように広報してほしい。
対象	結果	差																
保護者	79.5	-10.4																
児童(低)	95.5	-2.4																
児童(高)	94.4	-4.1																
教職員	95.2	+10.0																
幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>59.6</td><td>-14.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>90.5</td><td>-9.5</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	59.6	-14.6	教職員	90.5	-9.5	●保護者は「わからない」が増加した。教職員も低評価になっている。幼・保・小連携に関する学校の取組について、全学年の保護者に周知できていなかったためだと考える。	・引き続き、あいさつ活動の連携校拡大やサマースクールでの取組の工夫等、活動の充実に努めていくとともに、情報発信力も強化していく。 ・保育園等との交流は、例年通りに実施し、連携を深めていく。	・学校での様子を学校HPで公開し、公開されていることを随時お知らせすることで、学校への理解が深まる。 ・保護者も地域や家庭が学校を支えるという意識をもってほしい。						
対象	結果	差																
保護者	59.6	-14.6																
教職員	90.5	-9.5																
VII 情報の発信、家庭・地域との連携について ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA 活動の充実などについて <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>71.9</td><td>-15.0</td></tr><tr><td>地 域</td><td>100</td><td>+28.6</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.2</td><td>-4.8</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	71.9	-15.0	地 域	100	+28.6	教職員	95.2	-4.8	◎地域は、大幅に評価が高くなっている ●情報発信については保護者の肯定的評価は15ポイント下がった。業務のスリム化により、毎週の学級通信を廃止したことが影響している。	・学校と保護者間での情報連携は、保護者連携システム C4th Home&School が定着しつつある。その反面発信内容を見てもらえているのかどうか、その方法についても検証が必要である。学校だよりは紙でも配布なので、C4th Home&School も見てもらえるよう工夫する。	・各行事ごとのアンケートは概ね良い評価である。四者評価のアンケートの際には、具体的な取組を資料のように出せば、回答しやすい。 ・PTA 活動も地域行事も参加者が少ない。保護者の協力が不可欠である			
対象	結果	差																
保護者	71.9	-15.0																
地 域	100	+28.6																
教職員	95.2	-4.8																

Ⅶ 教員の人材育成について ・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>+3.8</td></tr></table>	対象	結果	差	教職員	100	+3.8	◎教職員の評価が 3.8 ポイント上がり 100%となった。学校経営支援の働きにより、実施後の反省や検証が機能してきている。	・ 令和の日本型学校教育の構築を目指すには、専門性と協働性が重要であることを踏まえ、引き続き、計画的に研修を行うなどして指導力向上に努めていく。	・ 研究開発学校の取組が軌道に乗り、充実した教育活動ができている意識がある。このまま継続して取り組んでほしい。
対象	結果	差							
教職員	100	+3.8							
Ⅸ 教員の働き方改革について ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>教職員</td><td>76.2</td><td>-8.8</td></tr></table>	対象	結果	差	教職員	76.2	-8.8	●昨年度に対して、教員の評価が 8.8 ポイント下がり、80%を下回った。業務分担等、組織的な業務の効率化が不十分であった。	・ 勤務時間外在勤時間も短くなり、年々働き方に対する意識が高まっている。これまで積み上げてきた経験をさらに生かして、満足感がもてる取組をし、業務の効率化・最適化を目指し、100%達成を目指す。	・ 学習用情報端末を活用し、校務の効率化を図ってほしい。
対象	結果	差							
教職員	76.2	-8.8							